



No. 3

発行所 東京都中央区築地3~1  
(本願寺内) 全日本仏教会  
発行人 岩野真雄  
編集人 柳了堅  
印刷所 大同印刷株式会社

### 仏教新生活運動の提唱

寺院僧侶、仏教徒の生活が各方面から注目されているが、ビルマ大会を期として、滂湃として起つた仏教徒の在り方が検討されてきたが本会では本年度の運動方針として仏教新生活運動を提唱することになり、近く各機関を通して検討され、国民運動にまで盛上げる予定でこれに対する各界の御意見を望んでいる。

ビルマの第三回世界仏教徒会議に参加した方々がその印象を一口にした点は、日本仏教徒がその行事に於て大いに反省せねばならぬということであつた。とくに、ビルマの出家在家が「不殺生」「不飲酒」など、五戒を身をもつて堅持しているに反し、日本仏教徒が、口をひらけば、高遠なる大乘哲理を論じ、もつともらしい宗教信念を語るけれども、一端、その日常生活のことになると一向に戒行を顧みず、殺生、邪淫、飲酒など勝手次第となつていふことによつて、反省の声が、誰いとなしに、内分に起つてきている。

口には小乗仏教徒と貶称している連中が、立派な行為を示しているのに省み、われら大乘の日本仏教徒はこの儘、大乘教徒たるの自尊心をもつと共に、きびしく互いの道徳的行動に再反省すべきである。浄土門であるからといって、破戒無慙でいいという主張は許されない。親鸞上人も「非僧」ではあるが「非俗」であると自ら述懐していられる点は大いに考えるべきである。こうしたビルマ会議参加者の一致した輿論にそつて全日本仏教会では今年初頭からつよく国民の新生活運動を提唱することになつていゝる。もしも、こうした仏教徒生活運動が全仏教徒を中心としてひろく国民新生活運動にまでひろがつてゆくことが出来れば恐らく仏教復興の中心勢力となるであらう。

### 花まつりを

#### 全国的なものに

— 準備会開かる —

全日本仏教会では、仏教界に於ける年中最大の行事の一つである「釈尊降誕会」を全国的に一層盛大ならしめるため「花まつり委員会」を結成し、各方面で行われる花まつり行事に種々の便宜供手をはかるとともに、この行事を通じて全国の仏教徒にその自覚を促し、組織を強化する方策につき協議することになった。

このため一月十三日午後一時より築地本願寺に本会教学委員、宗派、大寺院、東京仏教団、区仏教会、学校等の各方面関係者二十余氏の出席を得て準備会が開かれたが、出席諸氏より花まつり行事についての経験や意見、更に本年度に於ける構想等の発表があつた。席上特に、釈尊降誕を心より喜び感謝する仏教徒としての基本的な態度精神を徹底させることが強調されると同時に、広くこれを一般大衆の参加できる行事とするための種々な具体的な提案などもあり非常に熱心な討論が三時間余に亘つて行われた。当日出席の諸氏をはじめ、各方面の有識者に依頼して「花まつり委員会」を構成することが、当準備会で決定され、この委員会が花まつり行事を意義あらしめるための企画、啓蒙宣伝等の衝に當ることになった。

なおポスターは目下全国共通のものを芸高田画伯に依頼して研究中である。

### 本會の法人格について研究

結成以来各方面に亘つて活動を続けて来た本会に於てはあらゆる方面より検討を加えた結果本会に法人格を具備せしめ、その基盤を強固なものにして、永久性を持たせる為此の方面の権威者に依頼しその性格を考究し適応せる法人たらしむべく万全を期することになった。

### 新年初頭の関西協議会

#### 一月十八日西本願寺で開かる

本会関西事務総局に於ては本部和連絡の上新年早々諸般の運動推進の爲本月十八日十時より京都西本願寺會議室に於て左の各項に關して重要協議会を開催されたが、この會議又は関西側から加盟各宗派責任者全員及び近畿二府四県の仏教会責任者(京都、大阪、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)が會同して左記案件に關して慎重協議された。尙関西事務総局からは藤音總長以下各部長本部からは岩野組織局長及び高橋部長が出席しいよゝ組織の強化と事業の推進を申合せた

#### 協議案件

- 1、全仏組織強化に關する件
- 2、関西側花まつり委員会結成の件
- 3、仏教社会福祉事業連盟結成の件
- 4、その他の事務連絡

### ビルマ大會記録近く発行さる

第三回世界仏教徒會議の日程決議、インド巡拜の記録が国際局において準備中で近く発行される。

尙本会には第二回世界仏教徒會議紀要(二五〇円)英文(二〇〇円)仏教と現代の諸問題(六〇円)永平寺大會記録(二〇円)が発行しておりますからぜひお求め願います。

第三回世界佛教徒會議報告概要

第一日(十二月三日)

午前八時半 開会式 (洞窟大講堂)

パーウィビルマ大統領式辭、高階瑞仙師

七長老の一人に推薦、四委員会分担決定

午後一時 総会 各国メツセージ及び報告

(中山事務長より吉田首相メツセージ朗

誦及び日本仏教現勢報告あり)

午後二時半 部会(委員会)

午後四時半 ウ・チヨウニエン外務大臣招

待茶会

午後七時半 大統領招宴

第二日(十二月四日)

午前八時 総会、各国メツセージ及び報

告

午後一時 総会、高階管長議長席に着き

仏像贈呈安置し、日本代表全員起立、高

階議長導師の下三篇依文を唱う

午後二時半 部会(委員会)

午後四時半 セイロン仏教会招待茶会

午後七時半 ランゲーン市長招宴

第三日(十二月五日)

午前八時 総会、各国メツセージ及び報

告

午後一時 W・F・B本部理事会

一、会長マララセーケラ推薦決定

一、副会長(決定) (カンボディア)パ

ルシオン(タイ)フィン(インド)ア

ーナンド・カウサリヤーヤナ比丘(ビル

マ)ウ・チャントン(マレイ)ピツチン

フイ(日本)長井直琴(フランス)カル

ベラ夫人

午後四時半 チッタゴン仏教会招待茶会

午後七時半 ランゲーン市商工会議所招宴

第四日(十二月六日)

午前七時 市内見学

午後一時 七葉窟大講堂に於いて、第六回

仏典結集に参加

午後七時半 各種仏教団体連合招宴

議案審議概要

第一部会(教育委員会)

議長カシヤツプ比丘

(ナーランダ大学々

長)

副議長ピツチンフイ

女史(シンガポール

大菩提学校長)

一、印度チタゴン地

方のマイナマナ外

四カ所の古蹟発掘

を東パキスタン政

府に要請する。

二、仏滅二千五百年

記念運動として五

戒の実践を各国仏

教会を通じて普及

しよう。

三、児童の仏教々育を強化しよう。

四、各仏教団に仏教の現状に關連して思想

的政治的、社会的状況を研究、且つ報告

する機關を設ける。

五、ビルマに於ける國際仏教大學創立に當

議案審議概要

第二部会(社会福祉委員会)

議長 ソフト博士(印度)

副議長 ルアンプリンニヤ(タイ)

一、ユネスコに協力する

二、孤兒院、病院、家畜病院を盛んにする

三、死刑廃止

四、凡ての集会の前に聖句を唱えよう

五、人種差別撤廃(日本提出)

六、人口問題の仏教的解決(同上)

七、労働問題の仏教的解決(同上)

八、戦犯釈放の徹底(同上)

九、社会事業の國際的連絡(同上)

第三部会(正法宣布

に關する委員会)

議長 ウ・テイ

モン(ビルマ最

高裁判官、ビル

マ仏教会長)

副議長 ソーニ

博士(印度代表)

一、ルンビニ園の

仏降誕聖地の復

興

二、クシナガラ仏

涅槃聖地の復興

三、東パキスタン

首府に寺院建設

四、チッタゴン及

南インドに仏教

を宣布する

五、現代日長に仏教を復興する

六、正法宣布運動を各国に展開し、宣布者

の育成及派遣を盛んにする

七、原始仏教と大乘との会通を進める(日

本提出)

第四部会(W・F・B及一般活動委員会)

議長 マララセーケラ博士(セイロン)

副議長 中山國際局長(日本)

一、昭和三十一年五月より三十二年五月迄

一、九九年間仏滅二千五百年記念事業を各国

に於て盛大に行うため、各国はその企画

を昭和三十年六月迄にセイロンのW・F

・B本部に通告する

二、仏教の降誕会、涅槃会、成道会等を一

定の日に世界的に定める様推進する

三、ジャザ仏蹟ボルボドールの復興をイン

ドネンヤ政府に協力せしめる

四、ウエーサカを印度の國家祭日にする様

印度政府に要請する。

日本は四月八日を要請する

五、ブダガヤ管理委員会に各国仏教代表を

加える

六、日本提案の各項

イ、仏教親善視察団の交換の件

ロ、学者及び留學生の交換の件

ハ、各国仏教徒の共同仏蹟參拜団の設定の

件

ニ、世界仏教共通聖典の編纂の件

ホ、仏教と印度教との協力の件

ヘ、仏教に対する外教及び政治との調整に

關する件

ト、未開拓地区世界仏教伝道の分担の件

チ世界仏教年鑑の編纂刊行の件

リ仏教圖書の交流の件

ヌ、W・F・B相互連絡強化の件

ル、仏青、仏婦の國際的機關の設置の件

ヲ、社会事業の國際的連絡の件

ワ、世界平和建設に対する協力の件

一、原水爆禁止

二、原子力の平和的使用

カ、仏旗、仏教紀元の普及推進に關する件

キ、仏教文書記章(クレスト)の設定の件

ク、仏紀二千五百年記念事業協力の件

ケ、仏教布教法の現代化に關する件

コ、仏教ニュースの交換連絡の件

ク、真如法親王の偉徳顕彰に關する件

ケ、世界平和広島仏舍利塔建設促進の件

コ、日本大会のスライド(天然色)を企画中で近

く完成する。(詳細次号)



日航機で羽田着の日本代表團一行

# 二月八日に結成大會

## 「関東甲信越佛教社会福祉事業連盟」

旧冬、東京日比谷公会堂に於ける全国社会福祉事業大会に際して、全日本仏教会では東京築地本願寺に於て、各宗派との連繋のもとに仏教関係者の懇談会をもち、仏教社会福祉事業のあり方などについて種々意見交換を行い、その後関東甲信越地域の関係者は、日赤社会部長高木武三郎氏を準備委員長として更に協議を重ねていたが、本年に入り去る一月十一日午後一時より全仏事務局に於て「関東甲信越仏教社会福祉事業連盟」結成のための第二回準備有が開かれた。

席上、仏教社会福祉事業の当面する諸問題について討議が行われ、この事業をより一層意義あるものたらしめるために、関係者相互の連絡を緊密化し、經驗を交流してより有効に事に当ることの必要性が認められ、このための大和合を期すべく来る二月八日関東甲信越の仏教社会福祉事業大会を草葉前厚相を委員長として開催することが決定された。

猶、全仏組織局では委員会の決定にしたがって、直ちにこの大会のための諸般の準備を開始している。因みに準備委員は全仏事務局関係の外は左の諸氏である。

- 委員長 高木武三郎氏 日赤社会部長  
委員 鶴飼 俊成氏 同善保育園長  
横田 淨音氏 長野県上田市明照会  
関岡 賢一氏 東京都保護部長  
高橋 梵仙氏 埼玉県保育委員長  
古坂 明詮氏 大正大助教授  
古屋 道雄氏 総持寺社会事業部  
長瀬 貫公氏 東京都保育委員長  
人見 貞開氏 日本済生会  
栃木県輪王寺社会事業

委員 重永 潜氏 浅草本願寺輪番  
善利 諦潤氏 築地本願寺社会部  
来馬 道断氏 曹洞宗教化部長  
宮崎 誠栄氏 千葉県、豊山派教  
学部長  
森 芳俊氏 杉並学園長  
(他地区代表は近く決定)

### 佛教徒の歌

## 『ああこのよろこび』完成近し

### 二月十五日の涅槃會に發表會

仏教各宗派各通で、しかも大衆に親しまれ、いづれの会合にも合唱ができれば現代の人々の唱和にふさわしい「佛教徒の歌」の制定が、各界から熱望されていたが、本会では二月二十一日の常務理事会において決議され、引つづいて二十五日の教学委員会でも具体的にこの作成要項を決め、早速準備にうつり、まづ作詩を芸術院員で仏門出身の土岐善麿先生(日比谷図書館長)に依頼し下記の歌詩が正月一日に完成した。

作曲は仏教音楽関係者十数氏に依頼し二月二十八日コンクールを開催し第一等が採用される。なほ発表会は二月十五日午後一時からビルの林立する丸の内朝日生命八階大ホールにおいて各宗派各団体仏教主義学校等五百余名参集の下に涅槃會の聖日を期して盛大に発表會が開かれNHKを通して全国放送の予定である。

なおポリドールレコード会社がこの企画に協力してレコード吸込みの上全国に発売されることになつてゐる。レコードの裏面は法の

## ビルマの聖土を迎へて

ビルマ戦死者慰霊法要、三月中旬に第三回世界仏教徒會議に出席した日本仏教代表團一行はビルマの各戦蹟を詣で、彼我戦死者の慰霊や日本人墓地の清掃などを行いさらに激戦地の土や石をあつめて十二月二十日歸国したが、この望土を迎えて歸国後直に大慰霊法要を執行する予定であつたが年末のため延期し陽春三月彼岸前に東京においてビルマ戦死者遺族を招き莊嚴なる大法要を行う予定で目下準備されてゐる。

なお各地区においてもこの法要が報告講演會と併せて行われる予定である。

## 音盤傳道開始

名士の講演を聞こうと思つても聞けない農漁村の忙しい人のために、又都會で落つて仏教の話を聞くことの出来ない人のためにレコードに名士の講演を収録し伝道を初めようと本会ではポリドールと提携して音盤による伝道を開始することになった、その第一回として鈴木大拙、椎尾弁匠兩博士の講演を収録し近く完成するので希望者には実費で頒布することになった。新しい伝道方法として各方面から大いに期待されてゐる。

## 負担金、募金の送金についてお願い

各宗負担金 各団体負担金、及び仏教徒募金については格別の御尽力を賜り難有厚く御礼申上げます。

ビルマ大会も有終の美を以つて終りましたことは偏に各宗派各団体の護法心の賜と深く感佩いたしております。ビルマ大会も終わりましたが、これからが本当に全一仏教運動を強力に推進すべきであります。それには資金が必要であり活動の原動力でありますことを御認識頂き、かねて御依頼いたしました負担金、仏教徒募金を至急お取まとめの上御送金下さるようお願いいたします。

## 募財推進本部

- 各宗派宗務総長  
各団体代表者殿  
各学 校 長

空を仰げば 空に 力あり  
地に立てば 地に 晴れて  
見よ花薫り 風 かがやき  
信するもの ころ 尽きず  
わらわら いま よろこびに満つ

世界にひとしく 朝の鐘を  
声高く うち 競うとき  
かの知恵と慈悲 身にうけて  
教えのもと 誓い 新たに  
呼びかわせば よろこびを得ん  
すべて いざ よろこびを  
ああこのよろこび ますます  
みほとけ 常になまねし  
恩徳は 常に

土岐 善麿作

ビルマ派遣留學生

応募者多数

本会ではビルマ国政府の招聘で日本の青年僧侶、学生中より優秀なる者を十名派遣することに決定。...

各国と作品交換

本会では、アジア仏教親善運動を実施しているが、その一つとして文部省をして、全国の小中高校幼稚園保育園から図画、習字、英作文など...

セイロンの首相に託す

その返札に早速ビルマの学校が図画二百点、返信の手紙が四〇通ばかり日本代表団に托して本会へ送られてきた。

なほ十二月二十二日、来朝中のセイロン首相コテラワラ氏にセイロンの子供達え二百点を友松事務局長が生徒、園児の代表を連れて手交した

また本会では引つづき世界各国の子供たちえレターフレンドを実施する予定を立てているが子供を通じての仏教親善は日本でも大きな反響をもった最初ではありませんでした

呼んでいるが、この作品を贈られた各県の教育委員会各学校に感謝の意を表するものである。

写真はビルマの生徒の図画(上)セイロン首相に花束と作品をおくるところ(下)



ビルマの生徒から便り

マヤテンからの返信

親愛なるマサコさん、今度、外国のお友達にお手紙を書く機会を得た事は、私の一生最上の喜びです。

去る十二月九日木曜日に私達のクラスの前から「明日、日本のお友達の手紙や作品が私達に送られます」と話して下さいました時に、私達は皆喜びの声を上げました。

いよいよ金曜日になりました。そして、手紙は配られ始めました。瞬間クラス全体が静かになりました。

しかしこれは日本人々と接触をもった最初ではありませんでした

してこの手紙を戴く前は、私の日本人に対する考えは日本の軍隊が私達の国に満ちていた戦争中の考えでありました。日本の兵隊は強大で勇氣がありましたが、しかし、兵隊はあくまで兵隊であります。



最後に今後も日本のお友達と、仏教を通してお互いの心の交換を致したいと思ひます。

マサコさん並びにそのお友達の健康と、日本とビルマの交友を祈りつつ筆をおきます。

免 任

主事 中原 道昭

組織局附を命ずる

松濤 弘道

臨時雇員

国際局附を委嘱する

各通 昭和二十年十二月三十日附

〇常務理事会開催

一月二十二日正午より事務局で議題は全仏法人格の件や当面の重要事項を審議する

〇トラクト頒布について

本会ではトラクト「めざめ」を数万枚伝道用に準備してありますから、各加盟団体から講演会その他開催の節は御利用下さい。

この場合は希望枚数、頒布の内容を詳細に書いて本会へて申込んで下さい。

〇仏旗の普及について

本会内にある仏旗普及本部では、万国仏旗を頒布しております御協力の上せいで御使用願ひます。

(大)一八〇〇円(中)三五〇円(小)九〇円です団体扱は六は二枚以上中は十枚以上小は五十枚以上になっております。調整頒布は高島屋百貨店、普及だけ本会で行っております。

映畫推奨

月は上りぬ

奈良県に疎開のまま居つた父と三人の娘との中流家庭その娘たちの縁談にまつわるホームドラマである。

古都奈良の風物や、伝統的な人情清深な禪宗寺院の空気がこの作品の素材となつており、日本特有の風土的な情緒を表現しようとしたもので登場人物の心理描写に中心がおかれてゐる。この作品はどこにも仏教的な主張を持つたものではなくむしろ風俗的な映画とも言えるが、父と四姉妹、その男友達との間に交流する愛情は素材で、また仏教寺院を中心としたヒュームエズムに立脚したものである。

近刊紹介 現代佛敎講座

本月下旬に角川書店から現代仏敎講座全五巻が発刊される。

- その内容は 第一巻 人間 社会篇 第二巻 思想篇 第三巻 歴史篇 第四巻 文学芸術篇 第五巻 聖典 高僧篇で現代仏敎の当面している全般の問題を取扱つてゐる。

(最寄の書店又は本社へ)

東京都千代田区富士見町

角川書店

振替東京一九二〇八

第一巻は本月下旬発行で各方面から期待されている(以下毎月一卷宛発行・五月完結の予定)

(き) 〇全仏も結成後第二二年目に入(が) つた、いよいよ本年から地に(と) ついた運動が望まれてゐる。(あ) 〇昨年までは毎月随時に各報道関係、各宗派、各団体え全仏通信としてプリントを送つていたが、月一回位は本印刷にして構成団体え連絡すべきだといふ要請に慮えて、とりあえず本年から毎月一回お送りすることになりました。従つて各報道機関には従前通り絶大なる御協力を願ひます。 〇各宗派各団体からの御希望なりニュースをどしどし御提供を願ひます 〇多忙而も素人の編集でよく出来ませんがだんだん充実して全仏の組織強化、地方との連絡に役立ちたいと念願してあります。(やなぎ)